

学力向上だより “継続と徹底”

第77号 R3.2.24 (水)

佐賀県教育庁教育振興課



佐賀県小・中学校学習状況調査の結果についてお知らせします。 あなたの学校の結果はいかがでしたか？

昨年12月に実施した令和2年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果概要は、以下のとおりです。

調査結果の概要

平均正答率が、県で設定した「到達基準」に達した教科は、18教科中15教科でした。「到達基準」に達していない教科は、小学校4年生国語と中学校2年生社会、理科でした。(小4国、中2社、理については次ページで解説しています。)

[各学年・教科の県平均正答率等]

○小学校

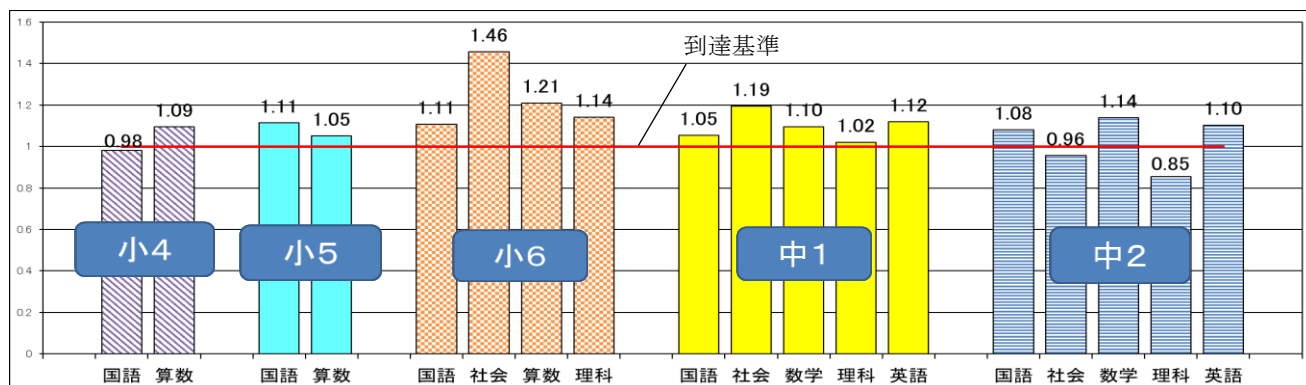
学年	小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生			
	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
平均正答数	10.1/18問	8.5/16問	12.6/20問	7.3/14問	11.5/18問	13.4/19問	9.7/17問	11.5/19問
県平均正答率(%)	56.1	53.4	62.9	51.8	64.0	70.5	57.0	60.7
無解答率(%)	4.0	6.6	4.3	4.6	2.3	1.5	4.3	0.4
到達基準に対する割合	0.98	1.09	1.11	1.05	1.11	1.46	1.21	1.14
到達基準(%)	57.2	48.8	56.5	49.3	57.8	48.4	47.1	53.2



○中学校

学年	中学校1年生					中学校2年生				
	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
平均正答数	12.5/20問	12.5/20問	11.2/20問	10.6/18問	11.1/20問	12.4/20問	9.5/19問	10.0/20問	8.9/19問	10.1/19問
県平均正答率(%)	62.7	62.7	55.9	59.0	55.4	62.1	49.8	50.1	46.7	53.4
無解答率(%)	3.1	2.3	5.4	4.6	5.6	2.7	7.1	8.6	5.5	8.8
到達基準に対する割合	1.05	1.19	1.10	1.02	1.12	1.08	0.96	1.14	0.85	1.10
到達基準(%)	59.5	52.5	51.0	57.8	49.5	57.5	52.1	44.0	54.7	48.4

[各学年・教科の到達状況]



令和2年度 佐賀県小・中学校学習状況調査 Web 報告書について

佐賀県教育センターのホームページにおいて、県調査の分析結果を紹介しています。この報告書では、各教科の成果と課題及び指導改善のポイントがまとめられています。是非ご覧いただき、各学校における今後の学力向上へ向けた取組に御活用ください。

<https://www.saga-ed.jp/contents/gakujyou/>

今年度の県調査では、これまで課題があった内容について改善が図られているものもありました。しかし、身に付けた知識を活用して、複数の情報や資料をもとに説明する設問において全体的に課題がみられます。習得した「知識・技能」を活用する学習場面を意図的に設定する等、授業改善を図っていくようにしていきましょう。以下に、小4国、中2社、理の内容について紹介します。

小学校4年生国語の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	5	55.6	5.1	64.0	▼	-8.4
思考・判断・表現	13	56.3	3.6	54.6		1.7

評価の観点でみると、「知識・技能」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は53.8（「到達基準」62.5）、「情報の扱い方に関する事項」の正答率は63.0（「到達基準」70.0）、「話すこと・聞くこと」の正答率は50.3（「到達基準」53.3）、「読むこと」の正答率は54.9（「到達基準」56.0）で、課題がみられました。

中学校2年生社会の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	15	49.9	6.3	54.0	▼	-4.1
思考・判断・表現	4	49.3	10.0	45.0		4.3

評価の観点でみると、「知識・技能」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「世界の諸地域」の正答率は44.9（「到達基準」52.0）、「中世の日本」の正答率は37.8（「到達基準」50.0）、「近世の日本」の正答率は47.1（「到達基準」52.0）で課題がみられました。

中学校2年生理科の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	10	53.2	6.0	60.0	▼	-6.8
思考・判断・表現	9	39.4	4.9	48.9	▼	-9.5

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「化学変化と原子・分子」の正答率は37.2（「到達基準」52.0）、「生物の体のつくりと働き」の正答率は48.3（「到達基準」56.7）、「大地の成り立ちと変化」の正答率は37.1（「到達基準」55.0）で課題がみられました。

小中連携事業の公開授業

太良町立大浦中学校：12月21日（月）

E-MAIL: oura-j@education.saga.jp

豊富な資料を活用して、主体的・対話的な視点を踏まえた授業！

1 研究主題

【校区テーマ】 小中連携による確かな学力の向上及び主体的・対話的に学ぶ児童・生徒の育成を図る
【学校テーマ】 授業と家庭学習を連動させた全教科での指導の工夫と改善を通して

2 公開授業の様子



学 年：2年生 社会
指導者：花田 茜 先生
単元名：中部地方～雪とのかかわりが深い北陸の産業
めあて：北陸の産業と人々の生活との関わりを考えよう

越後平野の稲作は、どのような自然環境を生かしているのだろう！



資料を基に個人で考えたことを、グループのメンバーに伝えている場面です。



授業の最後にOPPシート（1枚ポートフェリオ評価）に振り返りを行っている場面です。

伊万里市立山代西小学校：1月27日（水）

E-MAIL: yamashironishi-e@education.saga.jp

読みの視点を持ち、対話活動を通して要約をよりよくしていく授業！

1 研究主題

【校区テーマ】 小中連携による、基礎学力の定着と、自ら学ぶ児童生徒の育成
【学校テーマ】 すすんで考え、共に学び、生き生きと学習に取り組む子どもの育成～学び合い活動を取り入れた国語科指導の工夫～

2 公開授業の様子



学 年：4年生 国語
指導者：水田 常美 先生
単元名：きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう「ウナギのなぞを追って」
めあて：紹介文の「要約」の内容をパワーアップさせよう

興味の中心に沿った内容になるように、紹介文の「要約」の内容を読み合ってもっといいものにしよう。



教師の紹介文を読み、修正部分や良かった部分を見つけて、線を引いて書き込みをしている様子です。



友だちの紹介文の下書きを読み合い、互いに気づきを交流しながら見直しをしている様子です。